

ひと 2019

連続テレビ小説「なつぞら」の絵画を描いた

むらやま しつ 村山 之都さん



28日に最終回を迎えるNHK連続テレビ小説「なつぞら」で、十勝ゆかりの画家神田日勝をモデルにした登場人物の山田天陽が描く絵を制作した。中でも、若くして病死した天陽の「遺作」となった馬の絵は、本物のような躍動感を表現した。「自分も人生を出し切るような気持ちで描きました」と振り返る。

旭川市出身の画家。天陽の自画像や、菓子包装紙など約70点を手がけた。ただ、幼い頃に見た神田日勝の絵は、孤独や死の表現が強烈な印象で、その作風の再現は「荷が重すぎる」と感じていた。ドラマの制作陣から「村山さんの画風を生かして」と要望され、引き受けた。撮影にも立ち会い、天陽役の俳優吉沢亮さんが絵を描く場面の指導も担当。十勝を舞台にしたドラマの世界観に魅了され、「チームとして作品を作る経験ができて幸福でした」。

旭川東高では美術部に所属。早大、小樽商科大職員を経て、「本格的に絵を描きたい」と、27歳で武蔵野美術大に入った。現在は美術教室や大学の講師を務める傍ら、創作を続ける。

普段描くのは、丸みのある対象を直線で立体的に表現する具象画。今月、東京・銀座で開いた個展では、牛の絵の大作を飾った。色調への興味から、白黒の模様を描くのが好きだ。故郷を意識していないが、雪や針葉樹にはひかれる。「北海道が自然と体に染みついているのかな」。50歳。美術家の妻と埼玉県川口市に住む。（大沢祥子）

※村山 之都氏は小樽商大の元職員です。